

すっぴんの家

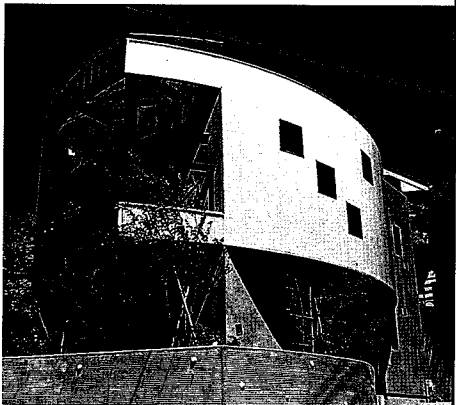
英国と日本の文化の良さを活かす



（有）連健夫建築研究室 **連 健夫**

（有）連健夫建築研究室一級建築士事務所代表、明治大学非常勤講師。川崎市民アカデミー講師。1956年京都生まれ、建設会社勤務の後、5年間、英国で学生・教師・建築家として過ごす。帰国後「心と対話する家づくり」をテーマに設計活動を行っている。☎03-5456-5134 <http://www.geocities.co.jp/Hollywood/8372>

連邸／川崎市麻生区 夫婦＋子供2人

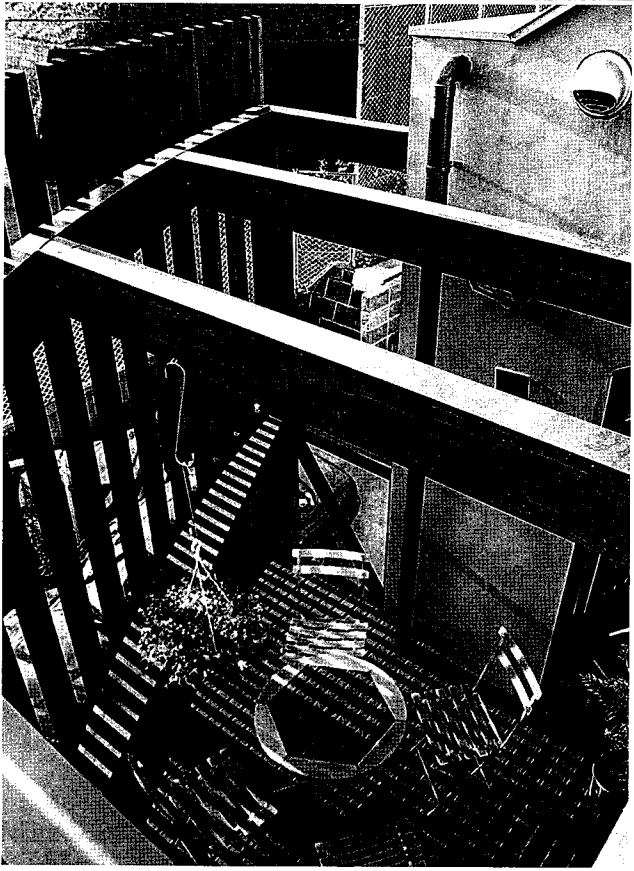


癒され元気が出る家を目指し 家族でコラージュをつくる

ほかの住宅を設計する時もそうですが、まず住み手である家族にコラージュ（切り貼り絵）をつくってもらっています。これはユング心理学からヒントを得たもので、施主の無意識にある嗜好や希望をコラージュから感じ取り、「心と対話する建築」、つまり癒され元気が出る家を設計する手がかりにしようと考えたのです。

妻のコラージュからのヒントは「水滴」の形。

街並みのアクセントを意識した外観。ガルバリウム鋼板と格子で曲面を構成。それ以外はモルタルに手づくりタイル張り、形は妻のコラージュからのヒント、船のように見える。



格子で囲まれたベランダ。西日を和らげ、プライバシーも確保できる。

敷地の特徴を活かした 手づくりの家を目指す

曲面の外観は、街並みのアクセントとなることを意識し、ガルバリウム鋼板と格子で構成しました。外と中、四方からアプローチできる1階の和室は、雰囲気を出すために壁と天井の中に照明を埋め込みました。

ここは、ゲストルームとして、また子供の誕生パーティーの会場として活躍しています。泊りがけで訪ねてくる友人や子供たちにとっても好評です。

通り抜け土間の床には、家族でつくったタイルを張りました。家族が建築に参加することで、手づくりの味わいが生き、愛着のわく家になると考えたからです。

1階の北側には洗面と浴室とトイレ、洗濯場を1つにまとめました。妻は、サニタリーが1室であることに不安を抱いていたようですが、実際に使ってみて、掃除もしやすく機能的であると満足しています。

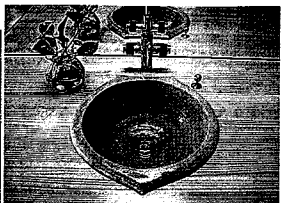
洗面台には、陶芸家の林之成氏に水鉢をつくってもらいました。毎日、顔を洗うたびに手づくりの良さを実感しています。階段にはネオンアーティストの安彦哲男氏による「つぼみ」と題された照明があります。また正面ベランダの上には網と粘土を焼いて作った日除けがありますが、これは現代美術家の連規子、私の姉の作品です。これらが建築の一部となっていることにより、芸術が身近なものに感じられ、また癒しがもたらされました。

家族のコミュニケーションを促す空間構成

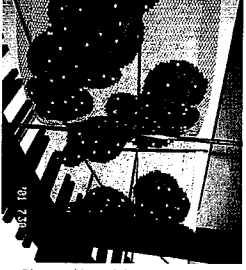
私が住宅設計で重視しているのが、家族のコミュニケーションのきっかけづくり。そこで、キッチンはL字型にし、リビング・ダイニングに向けて設けました。また、リビングの角には夫婦の書斎コーナーを設けました。オープンな空間にしたことで、面積の効率化が図れるとともに、親の仕事に子供が興味を示すというコミュニケーションにも役に立ちます。リビングを通して出入りするように配置した子供室は、正方形を斜めに2つに分けたプラン。各4畳大しかありませんが、三角形であること、ベッドの下部に机を置くなどの工夫によりあまり狭く感じません。おまけに、はしこで小屋裏に行くことができます。この小屋裏は13畳大と結構広いので、子供のプレイスペースとして活用。また、吹き抜けでリビングとつなぎ、下階にいる人に声を掛けられるようにしました。さらに、小屋裏から屋上に出られるという楽しい仕掛けもあります。御訪問希望の方は、遠慮なくご連絡ください。時間を調整致します。



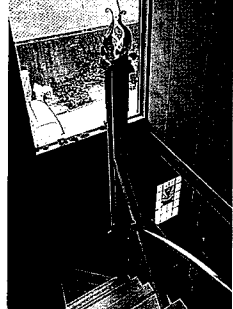
洗面・便所・風呂・洗濯を、コンパクトに1つにまとめた。



洗面の水鉢は林之成氏の制作、外観に合わせてデザイン。



日除けは姉の連規子の制作、網と土を焼成し、雲形状に抜いた。



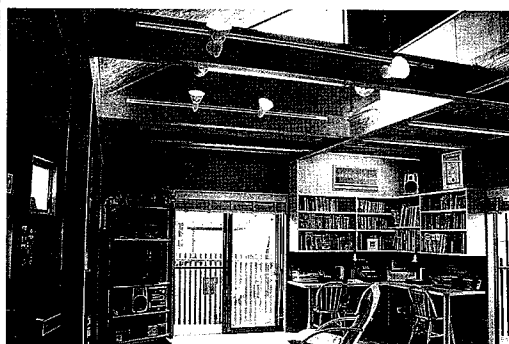
階段の照明は安彦哲男氏の制作、テーマはつぼみ。

通り抜けの土間に家族で作ったタイルを張った。



家族でタイルと取っ手をつくる。

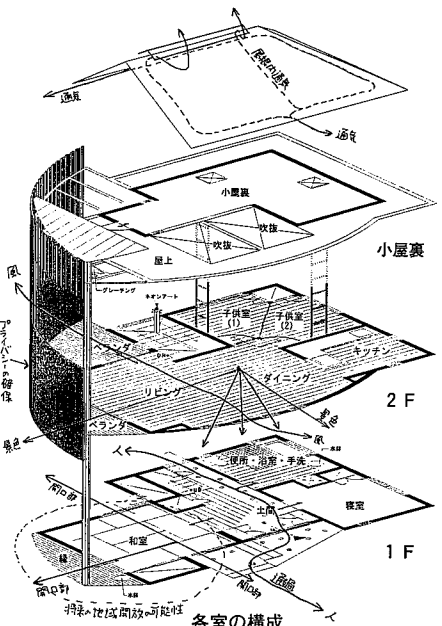
家族で作ったコラージュ（切り貼り絵）、これから設計のヒントを得る。



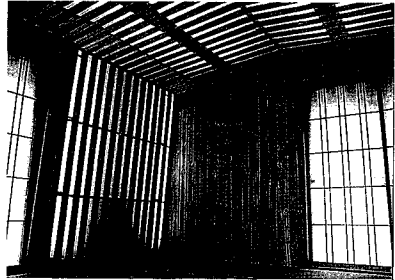
リビングにはさまざまな窓がある。梁と吹き抜けは民家のイメージ。



2つの子供室は3本引戸で開閉できる。



1F床面積／49.74㎡ (15.05坪)
2F床面積／58.53㎡ (17.70坪)
延床面積／108.27㎡ (32.75坪)
敷地面積／139.74㎡ (42.27坪)
木造軸組工法
設計／（有）連健夫建築研究室
施工／くらし建設



光壁と光天井の和室。四方すべてに開口部がある。

さらに、南側にはテラス窓と三角の高窓を、

2階のリビングにはいろいろな窓を設けました。曲面の壁には四角の窓をさまざまな高さ

風が抜け、光を楽しむ空間

くつてもらいました。毎日、顔を洗うたびに手づくりの良さを実感しています。階段にはネオンアーティストの安彦哲男氏による「つぼみ」と題された照明があります。また正面ベランダの上には網と粘土を焼いて作った日除けがありますが、これは現代美術家の連規子、私の姉の作品です。これらが建築の一部となっていることにより、芸術が身近なものに感じられ、また癒しがもたらされました。